

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17109005	神経可塑性モデルとしての神経因性疼痛の発症・認識機構の体系的研究	伊藤 誠二（関西医科大学・医学部・教授）	A
<p>難治性の神経性疼痛の発症・伝達・認識機構の体系的な解明に向けて着実に研究が進展している。初期目的に照らして概ね成果をあげつつあり、コンスタントに研究業績の公表も行っている。神経損傷に伴う NMDA→nNOS のトランスロケーションによる活性化→NO 経路の重要性の発見や炎症性疼痛モデルを用いた脊髄 AMPA 受容体のトラフィック関連分子の発現変化の同定は意義深い。研究組織及び研究費の使用については問題ない。In vitro および in vivo の両面で研究を展開しているが、PET による分子イメージング解析は、in vitro で得られた結果の確認やヒトへの応用を目指した臨床研究への橋渡しとして重要であり、その成果を期待したい。</p>			